

## 反橋（太鼓橋）

13 世紀からこの地に橋があったという記録があるが、現在の橋は 1600 年頃、淀殿（1567-1615）の寄進によって造られたものである。淀殿は、1582 年から 1598 年まで日本を支配した大名である豊臣秀吉（1536-1598）の側室であった。淀殿は、後に将軍となり徳川幕府を創設した徳川家康（1543-1616）と戦っていた嫡男の豊臣秀頼（1593-1615）のために、神々のご加護を求めている。この急峻なカーブを描く橋の正式名称は「反橋」だが、水面に映った姿から「太鼓橋」と呼ばれることもある。この橋を渡ることによって心が浄化されるという言い伝えがある。

この橋は船大工によって作られたと考えられており、円形の構造は船体を逆さにしたような構造になっている。1955 年に階段が設置されるまでは、橋の木製の板の隙間が唯一の足場だった。船大工が中心となって橋を維持管理し、何度も再建・修復を繰り返してきた。

2009 年に橋は大阪に本社を置く造船会社によって復元され、現在は鉄骨と新しいヒノキ材の板が使用されている。長さ約 21 メートル、高さ約 5 メートル、幅約 6 メートルである。傾斜は最も急なところで 41 度である。

この橋の名前は、ノーベル賞作家・川端康成（1899-1972）の短編小説の題名にもなっている。「反橋」では、母親が橋の上で息子につらい秘密を打ち明ける。息子は、自分の幻想が崩れて、橋の向こう側に降りるときに、最初の登りよりも怖かったと読者に語る。